

「ドッグダンス講師・養成コース」開催の想い

講師：真壁律江（CPDT-KA ドッグトレーナー）

近年、日本でもドッグダンスが盛んになり多くの方がドッグダンスを始めるようになりました。トレーナーだけでなく一般の方々もドッグダンスを目にすることが多くなり、やってみたいと思う方も増えてきました。

私がドッグダンスを教えられるドッグダンス講師の養成を始めようと思った理由は、

- (1) 一般の方がドッグダンスをやりたいと思った時に、ドッグダンスを教えられるトレーナーが圧倒的に少ないので、やってみたいけれど教えてもらうことができない・・・という現状。ならば、ドッグダンスを教えられるトレーナーを増やせばよいと思ったから。
- (2) たくさんのトリックができるようになった飼い主さんが、ドッグダンスができるのではないかとドッグダンスを教えてください。といらっしゃるのですが、トリックにきちんとコマンドがついていない、犬が興奮状態でコントロールできていない、雰囲気犬が動いているだけできちんとコマンドを理解していないなど、ドッグダンス以前にトレーニングし直さなければならないことがあり、トリックもきちんと教えられるトレーナーが必要だと思ったから。
- (3) ドッグダンスは競技会が開かれている正式なドッグスポーツです。「ドッグダンス風」ではなく、きちんと競技会に出られるレベルのドッグダンスを知ると共に、そこを目指す人への指導もできるトレーナーが必要と思ったから。
- (4) トレーニングには順番があるので、きちんと段階を追って犬に理解させ、犬を混乱させないように進めていくことで、犬もハンドラーも自信を持ってドッグダンスが楽しめる。その結果、競技会などに参加しても戸惑うことなく、練習の成果が出せ、評価を受けることができるのだと思う。それらを体験し、実感し、一般の方へドッグトレーニングの楽しさ、犬と一緒に踊るドッグダンスの素晴らしさを伝えてほしいと思ったから。
- (5) 将来、ドッグダンスのジャッジもできるぐらいの知識とルーティンを実践できる目を養ってほしいから。

私がドッグダンスを始めたのは10年前、私も含め、当時ドッグダンスをやっていた方たちは、海外のドッグダンスビデオを見ながら、見よう見まねで独自の方法でルーティンを作っていました。そういう方法しかなかったのでとても苦労しましたが、その苦労のお陰でいろいろなことを勉強しました。失敗したことを

分析する事、犬とのコミュニケーション方法の数々を知った事、ドッグトレーニングには順番が必要であるという事、土台や基礎がきちんとしていないと先には壁があるという事、ルーティンを評価する目を養う事などが出来ました。

2014年11月、ドイツで行われたドッグダンスのヨーロッパ大会「OCE2014」に参加してきました。目の前で見た競技会はとても迫力があり、世界のレベルも年々上がっているのではないかと感じました。

「ドッグダンス講師・養成コース」では、私が10年間試行錯誤しながら習得したクリッカーの使い方とドッグダンスに関するトレーニング方法を全て伝授いたします。

ここ数年「私は職人か？」と思うぐらいに、細かいことにこだわっていますが、犬を混乱させないためには、丁寧に教えていく事が重要です。さらに犬に考えさせる事、犬が自ら楽しんでやるように導く事も必要です。そのきっかけにクリッカーを使って教えますが、このクリッカーの使い方独特でダブルクリック、シングルクリックと使い分けます。クリッカートレーニングは10年前からやっていますが、このWクリックとSクリックの使い分けを始めたのは5年ほど前からになります。このWクリックとSクリックの使い分けを犬が理解するとSクリックだけで教えるよりも犬の学習速度が速いように感じます。

アティラ氏が初めて来日した2004年のワークショップでは、すでにWクリックとSクリックの使い分けをしていましたが、習得しきれずその後もSクリックのみでトレーニングをしていました。今思えば、なんとも残念ですが、その後もWクリックとSクリックを習得する機会には恵まれませんでした。使い分けは理解できていましたが、それをその先どのように犬が分かるように使っていくかは試行錯誤をしながら、ある意味「真壁流のクリッカートレーニング法」を構築いたしました。自称「クリッカー職人」とでも言うておきましょうか(笑)

「Wクリックなんて邪道だ！」と言われたこともあります。海外では10年前から使っている人がいましたし、トレーニング方法は何が正しいということはなく、犬が分かりやすく効果的であれば、使うべきだと思います。

イタリアン・グレイハウンドのルーチェのトレーニングは最初からクリッカー(Sクリック)で行い、6ヶ月になった頃からドッグダンス用のトリックなどを教え始めました。2006年11月、ルーチェ(2歳2か月)が初めて参加した競技

会では、初心者クラスで優勝、審査員特別賞もいただきました。当時、ドッグダンスで世界一位のアティラ・シュカレック氏と現在 OPDES のフリースタイル競技会審査委員長のアンディ島田先生が審査員を務め、イタグレにここまでトレーニングを入れたということで、とても褒めていただきました。

昨年の「OEC2014」には、黒ラブミックスのラーラ（2歳3ヶ月）で、HTM と Freestyle の 2 種目に参加しました。2歳3ヶ月で2種目エントリーは無謀だと思いましたが、ラーラには最初から W クリックと S クリックで教えていますので、両方エントリーしたくなるぐらい覚えるのが早かったのです。

HTM は 40 人中 29 位、Freestyle は 49 人中 38 位という成績でした。順位はまだですが、世界でも通用するんだ・・・という自信は得られましたし、世界のレベルを見て、目指すところがはっきりしました。現在、そのために必要なトレーニングをラーラにし直していますが、皆様には出し惜しみすることなく、世界から学んだことも含めて教えていきますので、楽しみにしてください。

ただし、ドッグダンスはコツコツと時間をかけて、一つ一つ犬に教えなくてはいけないので根気と時間が必要になることも、予め知っておいてください。その分、犬が習得したときの喜びは格別だと思いますので、それも楽しみの一つになれば幸いです。

2015 年 2 月 2 日
Pet Studio Hocci